

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ	CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ	

日産のサステナビリティ

サステナビリティ戦略

日産の考えるサステナビリティ

日産はコーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」の実現に向け信頼される企業として、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。グローバルなあらゆる事業活動を通じて企業として成長し、経済的に貢献すると同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、社会が直面する諸課題の解決に貢献することは日産の使命です。日産は、お客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーから必要とされる、真にサステナブルな企業となることを目指し、よりクリーンで、安全で、インクルーシブな、誰もが共生できる世界の実現を推進していきます。

社会の課題分析とマテリアリティの特定

日産は、ステークホルダーの皆さまの関心、ならびに技術革新などの最新動向を踏まえながら、サステナビリティ戦略を策定し、活動を推進しています。戦略策定にあたり、日産の優先課題を明確に示すため、リスクや機会分析を踏まえた会社全体として取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

特定にあたりダブルマテリアリティの考え方を取り入れ、これまでも投資家からの関心が高かった「社会・環境が日産へ与えるインパクト(財務的影響)」の視点に「日産が社会・環境へ与える影響や価値」の新しい見方を加えた2側面により、企業活動とサステナビリティを相互に検討し、日産のつくり出す価値と取り組む優先順位を提示しています。

このように、日産としての方向性をより詳細にステークホルダーにお伝えすることで、自動車セクターのみならず、さまざまな協働機会の拡大や信頼関係の向上を図り、さらなる取り組み推進につなげたいと考えています。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ	CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ		

マテリアリティ特定のプロセス

STEP1.社会・環境課題の明確化

定期市場動向分析、ステークホルダー・投資家の皆さまとの対話より得られた社会からの期待値、グローバルスタンダード、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)、SDGs、世界経済フォーラム(WEF)発行のリスクレポートなどからグローバルなアジェンダを明確化。

STEP2.自動車セクターおよび日産の重要課題特定

コーポレート長期ビジョンにより実現する世界と、そこで果たすべき自動車セクターの役割という視点からリスクと機会を分析することで、日産にとっての課題を特定。

STEP3.マテリアリティの優先度整理

縦軸・横軸の2側面からリスクと機会を優先度の整理を実施し、日産のつくりだす価値と今後さらに強化して取り組むべき課題をマトリックス型により整理。有識者レビューを行い、フィードバックを反映。

STEP4.執行役員、取締役との合意

特定したマテリアリティは、各項目の設定理由や背景を含め執行役員、取締役へ報告し、合意を得て決定。

日産のマテリアリティマトリックス

21項目のマテリアリティを特定し、その中でも日産が社会・環境へ与える価値・インパクトが最も大きい縦軸最上段の項目、および社会・環境から日産へ与えるインパクトが最も大きい横軸最右列の項目を最重要12項目としています。

特定された各項目は、事業活動へ織り込んでいくことで協働機会を拡大し、より一層充実した活動推進につなげ、コーポレートパーパスを具現化していきます。



目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

重要と考える理由

マテリアリティ	重要と考える理由	日産の取り組み	E	S	G
ガバナンス、法規制、コンプライアンス	コーポレートパーパスや行動規範に基づき、透明性のあるフレームワークを用いた効果的なガバナンスを通じて最大限の誠実性を持って事業運営を行う。また法規制を遵守し人々と社会に対し敬意と誠実さを持ち行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コーポレートガバナンス(P122) ✓ コンプライアンス(P134) 			✓
包括的なモビリティソリューション	自動運転などの新しいモビリティ技術とサービスをより多くの人に提供し、誰もが安心して自由に移動できるインクルーシブな社会を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交通安全(P075) 		✓	
人権	すべての従業員が個人の尊厳と人権を最大限に尊重する組織を醸成する。また国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を参照した社内倫理基準に基づき行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人権(P068) 		✓	
クルマの電動化	電動車ラインナップの拡充、バッテリーと車両の技術革新、クルマの多様な使い方を可能にするエコシステム構築により、カーボンニュートラル実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動—製品を通じた取り組み(P026) 	✓		
再生可能エネルギー	国や自治体との協働や、さまざまな業界団体との連携を通して、CO ₂ 削減に向けた再生可能エネルギーや代替燃料の使用を推進する。EVバッテリーの循環利用などの4R*の取り組みやV2Xの活用を通じ、エネルギーマネジメントで社会課題の解決を継続する。 *4R：バッテリーの再利用、再製品化、再販売、リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動(P023) 	✓		
クルマの安全性	先進の運転支援技術をより多くのお客さまに提供することで、日産車のかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交通安全(P075) 		✓	
クリーンな排出ガス	「大気並みにクリーンな排出ガス」を目指して、製品や拠点から排出されるのは、よりクリーンな排出ガス(Nox、PMなど含む)となるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大気品質(P046) 	✓		
プライバシー&データ保護	データ保護およびプライバシー権の保護に取り組み、適切なセキュリティ対策を講じてステークホルダーの個人情報を守り、新しい技術とセキュリティリスクを考慮したデータの安全な取り扱いに責任を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リスクマネジメント(P132) 			✓
コミュニティの発展	災害時の復旧支援や人道支援に加え、「ブルー・スイッチ」のような社会変革への取り組みを通じてコミュニティの発展に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動—社会との連携(P033) ✓ 地域社会への貢献(P117) 	✓	✓	
製品品質	デザイン、性能、化学物質管理および車室内空気質向上などの製品品質向上により、より安心・快適で使いやすいモビリティを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大気品質(P046) ✓ 製品安全および品質(P091) 	✓	✓	
サプライチェーンマネジメント	サプライヤーCSRガイドラインに基づき人権・環境に配慮したサプライチェーンからの責任ある調達で、原材料の安定供給と地域共存を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境課題を踏まえた事業基盤の強化—サプライヤーとの協働(P064) ✓ サプライチェーンマネジメント(P097) 	✓	✓	
サステナブル資源マネジメント	資源価格変動や調達リスクを回避し、資源依存を最小化するため、リペア/リユース/リビルト/リサイクルなどのサーキュラーエコノミーの効果的な循環利用による、最適なクルマ作りの仕組みを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資源依存(P048) 	✓		

E: 環境、S: 社会性、G: ガバナンス

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

サステナビリティ戦略 「Nissan Sustainability 2022」

日産は2018年にサステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を策定しました。「Nissan Sustainability 2022」では、日産の事業における機会や課題、社会の期待を踏まえた長期のサステナビリティビジョンに加え、「E(Environmental: 環境)」「S(Social: 社会性)」「G(Governance: ガバナンス)」の側面(重要な項目)における日産の取り組みや2022年度までの目標を明確にしました。

特に環境領域では、日産は2050年までにクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する目標を設定し、2030年代早期より、主要市場で投入する新型車をすべて電動化車両とすることを目指しています。気候変動に伴う産業構造の改革においては、「Just transition(公正な移行)」の考えを実践し、「誰も取り残されない社会」の実現を目指しています。

	日産の取り組み	サステナビリティビジョン	2022年の主なゴール/アプローチ		
環境	気候変動	2050年にライフサイクルでのカーボンニュートラルを実現することとし、2030年早期より、市場で投入する新型車すべてを電動化車両とする	製品および生産活動からのCO ₂ 削減に向け取り組む <ul style="list-style-type: none"> ▪クルマからのCO₂を削減する：新車からのCO₂排出削減40% (2000年度比：日本、米国、欧州、中国) ▪企業活動全体からのCO₂排出削減：グローバル販売台数当たりのCO₂削減30% (2005年度比) 		
	資源依存	新規採掘資源依存ゼロ <ul style="list-style-type: none"> ▪2050年において台当たりの資源使用量のうち、新規採掘資源に頼らない材料を70%にする 	廃棄物埋め立て量、廃棄物削減等への取り組みも含め新規資源の使用量最少化を目指す <ul style="list-style-type: none"> ▪新車の30%(重量ベース)を新規採掘資源に依存しない材料にする 		
	大気品質	ゼロ・インパクト	製品および生産活動からの排出ガスクリーン化等に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ▪車室内の空質環境を改善する：実用化に向けた開発を促進 ▪生産活動でのVOC排出を削減する：塗表面積当たりのVOCを削減(2010年度比) 		
	水資源	ゼロ・ストレス	工場での水資源利用の削減に向け取り組む： グローバル生産台数当たりの水使用量21%削減(2010年度比)		
社会性	人権の尊重	交通安全	日産車がかかわる死者数を実質ゼロにする	安全性能に係わる技術の進化と採用拡大を推進する	
		ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向など、多様なバックグラウンドからなる人財一人ひとりが力を最大限発揮できるインクルーシブな組織を実現し、イノベーションを創出して持続的な成長につなげる	女性管理職比率について、基本的な考え方として、女性管理職比率と間接従業員に占める女性比率を同等レベルに近づけることを目標とする(日本)	
		品質	製品品質	製品品質	お客さま視点でトップレベルの品質を目指す
			セールス・サービス品質	セールス・サービス品質	すべての主要国においてトップレベルのセールス・サービス品質を実現し、長期的にトップレベルを維持する
		サプライチェーン	環境と人権に配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ▪当社と取引のあるすべてのサプライヤーが「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を遵守する ▪サプライヤー環境調査やサプライヤーとの協業を通じ環境負荷の低減を目指す 	以下の取り組みを通じて、継続的な学習と自己開発を日産の企業文化にすることを旨とする <ul style="list-style-type: none"> ▪自己開発のための統合フレームワークの導入 ▪リーダー育成プログラムの最適化 ▪「いつでも、どこでも学べる」デジタルツールの提供
		従業員	従業員の能力開発	日産は、将来へ向かってさまざまな状況に対応できる能力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ▪労働災害発生率を継続的に前年度の実績以下に維持する。死亡事故に関してはゼロとすることを目指す ▪健康経営を推進し、いきいきと働く企業の実現を目指す
地域社会への貢献	よりクリーンで安全でかつすべての人に平等な機会が与えられる社会を実現する	労働安全衛生	災害事故や疾病のない明るく活力ある職場の実現	環境、交通安全、ダイバーシティの3つの戦略領域に関連する社会貢献プログラムをグローバルで実施する	
ガバナンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの向上を経営に関する最重要課題のひとつとして取り組む			
	コンプライアンス	コンプライアンス違反未然防止の仕組みを機能させ、日産グループ全体でコンプライアンスの遵守を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> ▪コンプライアンスリスク領域ごとのモニタリング機能の強化と、その統合的な監督の仕組みを構築する ▪サードパーティを含めた日産のビジネスプロセス全般のコンプライアンス強化を徹底する 		
	リスクマネジメント	情報セキュリティの維持・強化、情報漏えいの未然防止・被害最小化・透明性維持などを、ベンチマークレベルで達成する	情報セキュリティの維持・強化において、新たな環境・領域への対応を含めて、各分野ベンチマークレベルで達成する		

環境：中期行動計画「ニッサン・グリーンプログラム2022(NGP2022)」を着実に実行し、COVID-19や半導体不足による生産台数減少の影響を受けた一部の取り組みを除き、主な領域において目標を達成しました。

社会性：従業員に対しての人権デューデリジェンスを実施し、サプライチェーン領域での人権の取り組みも加速させてきました。NS2022として掲げた社会性の主な取り組み項目を実行することができました。

ガバナンス：新ガバナンス体制の構築をはじめ、さまざまな社内ポリシーを制定し、法令遵守とルール強化を図り、公平・公正で透明性を持った事業活動を行ってきました。

NS2022は2022年度で完了しましたが、より一層サステナビリティの取り組みを加速し、進化させる必要があります。「Nissan Ambition 2030」を実現するため、2030年度に向けての次期サステナビリティ戦略を現在策定しています。

2022年度実績の詳細については、各章をご参照ください。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

サステナブル・ファイナンス・フレームワーク

日産はコーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」の実現に向け、サステナビリティを事業の中核として位置づけ、グローバルな事業活動を通じて企業として成長し、社会が直面する諸課題の解決に貢献することを目指しています。

その取り組みの一環として、日産はサステナビリティの推進をより一層強化するために必要な資金を調達可能にするサステナブル・ファイナンス・フレームワーク*1を設定しました。本フレームワークは、グリーンボンド原則(GBP)2021、ソーシャルボンド原則(SBP)2021、およびサステナビリティボンド・ガイドライン(SBG)2021、ならびにグリーンローン原則2021、およびソーシャルローン原則2021に適合しており、その適合性については、独立した外部機関であるサステナリティクスより、セカンドパーティ・オピニオン*2を取得しています。

本フレームワークを通じて調達した資金は、バッテリーを含む電動車両の開発や生産、EVエコシステム・スマートシティの実現に向けた技術開発やインフラ整備、より安全で持続可能なモビリティの開発など、幅広い取り組みに使用する予定です。今後も日産は、サステナビリティの推進を通じて、ステークホルダーの皆さまに優れた価値を提供し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

2,000億円の シンジケート・グリーンローンを締結し、 ゼロ・エミッション モビリティへ投資

日産は、サステナブル・ファイナンス・フレームワーク策定後、初めての資金調達となるシンジケーション方式でのグリーンローン契約を2022年11月に締結しました。*3 本ローンは、契約金額2,000億円、契約期間は5年および7年となり、日産の長期的な電動化戦略およびカーボンニュートラルの実現に向け、ゼロ・エミッションモビリティに関連するプロジェクトの支援に活用していきます。電気自動車(EV)や将来のカーボンニュートラルな輸送手段を実現するゼロ・エミッション車と、その構成部品の設計、開発、製造を行うための投資や費用など、日産のフレームワークに定義された適格なグリーンプロジェクトに資金を充当することで、電動化プログラムを加速させていきます。

総額2,000億円の サステナビリティボンドを発行し、 グリーンプロジェクト、 サステナビリティプロジェクトに充当

日産は、総額2,000億円のサステナビリティボンドを2023年1月および2月に発行し、資金調達を完了しました。*4

このサステナビリティボンドは、サステナブル・ファイナンス・フレームワークに基づいた2番目の資金調達となり、個人投資家向け社債(愛称: サクラ[SAKURA]債)と機関投資家向け社債で構成されています。

資金は、電気自動車(EV)に関する設計、開発、製造を行うための投資や費用、自動運転の開発など、日産のフレームワークに定義された適格なグリーンプロジェクトおよびサステナビリティプロジェクトに充当します。

*1 日産自動車・販売金融関連会社 サステナブル・ファイナンス・フレームワーク原本(英語) https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_en.pdf

参考和訳 https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_jp.pdf

*2 セカンドパーティ・オピニオン原本(英語) [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nissan-and-nissan-sales-finance-affiliates-sustainable-finance-framework-second-party-opinion-\(2022\).pdf?sfvrsn=85d89253_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nissan-and-nissan-sales-finance-affiliates-sustainable-finance-framework-second-party-opinion-(2022).pdf?sfvrsn=85d89253_1)

参考和訳 [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nissan-and-nissan-sales-finance-affiliates-sustainable-finance-framework-second-party-opinion-\(2022\)-japanese.pdf?sfvrsn=9177229f_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/nissan-and-nissan-sales-finance-affiliates-sustainable-finance-framework-second-party-opinion-(2022)-japanese.pdf?sfvrsn=9177229f_1)

*3 リリースはこちら <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-48b4dcee3ca553fae7e18a40fe024c80-221130-01-j>

*4 リリースはこちら <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-852a2a2cb9af6879ff7b8333991e25d8-230120-02-j>

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ	CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ		

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ戦略の目標設定や進捗確認など具体的な活動の社内横断的な管理については、チーフ サステナビリティ オフィサー(CSO:Chief Sustainability Officer)が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティで議論しています。グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティは年2回開催し、ESG各領域で活動を担う部署の責任者が参加します。各活動は担当部署が責任を持って推進し、その進捗はコミッティで報告されます。PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回すことで、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上を追求しています。2022年度は3回開催しました。さらにグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティでの議論は日産の最高意思決定機関であるエグゼクティブ・コミッティ(EC:Executive Committee)に報告・提案され、その内容は取締役会へ報告しています。

サステナビリティ戦略に関する意思決定プロセス



経営層の役割と評価

2021年度より、長期インセンティブ報酬の1つである業績連動型インセンティブ(金銭報酬)において、サステナビリティに関する評価指標としてカーボンニュートラルと人権尊重を新たに追加しました。これは、当社の「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」というコーポレートパーパスのもと、長期的な企業価値および社会価値を向上させ、サステナブルな企業とするための取り組みの成果を報酬に反映させるものです。なお、当社が中長期的な企業価値および社会価値を向上させ、サステナブルな企業となるための戦略のうち、特に事業への影響が大きく、ステークホルダーの関心も高い下記の二つの観点について、関連する評価指標を追加しました。^{*1*2}

- 環境課題への対応：カーボンニュートラルに関わる取り組みを評価する外部指標
- 社会課題への対応：人権尊重に関わる取り組みを評価する外部指標

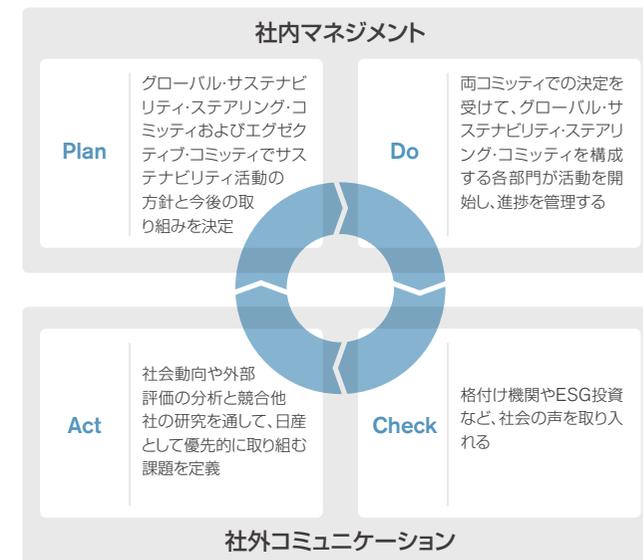
(業績連動型インセンティブ(金銭報酬)の評価指標のうち10%を当該指標に配分しています)

サステナビリティ推進のマネジメント

サステナビリティを推進するPDCAサイクル

日産では、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティおよびエグゼクティブ・コミッティ(EC:Executive Committee)でサステナビリティの方針を決定したうえで、活動の進捗を管理、社会の声の企業活動への取り込み、外部評価の分析に取り組むなどPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを通してサステナビリティ活動を推進しています。

PDCAサイクル



*1 報酬制度の評価指標に関する詳細は2022年度有価証券報告書(P066)こちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/IR/LIBRARY/FR/2022/ASSETS/PDF/fr2022.pdf#page=69>

*2 報酬委員会に関する詳細はこちらをご参照ください。 >>> P127

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ	CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ		

「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。^{*1}

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。

日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、サステナビリティマネジメントを進めています。

WE SUPPORT



ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設けることで、オポチュニティとリスクの芽を見いだすことが可能になります。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内フィードバックする体制を構築しています。

日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



^{*1} 国連グローバル・コンパクトに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ungcn.org/>

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

ステークホルダー	ステークホルダーとの対話の機会	ステークホルダーの関心事、主なテーマ	2022年度の主な取り組み
お客さま	問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス	製品やサービスの品質 お客さまへのサポート	お客さま相談室対応(約20万件・日本) Quick VOC (P096) Earth hour2022へSNSを通じて参加呼びかけ
従業員	問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)	会社の業績や課題 社内ダイバーシティ 職場環境 キャリア、教育	社長講話 ECメンバーと部長層によるミーティング(MIE) サステナビリティセミナー DEI Fireside Chat (P085) (P110) 業績評価面談 従業員の興味関心事を集める目安箱「Your voice」(P110) グローバル従業員サーベイ(P108)
サプライヤー・ディーラー	定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト	公正な取引 日産のサステナビリティ方針や中期経営計画、購買方針	サプライヤー環境活動説明会(日本) 生産情報連絡会(月次) サプライヤー・ミーティング 購買方針説明会 Nissan Global Supplier Awards (P100) 日産グリーンショップ認定(日本)(P064)
株主・投資家	IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、メール配信サービス	日産の事業戦略、業績、サステナビリティの取り組みなどを 含む企業価値向上	株主、投資家とのエンゲージメント (P013) サステナビリティセミナー 技術セミナー 経営戦略に関するオンライン説明会 軽EV説明会
政府・自治体・ ビジネスパートナー・ 国際機関	問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、 各種協議会、意見交換会、イベント	法令遵守 実証実験など公共施策への協力 共同プログラムの推進	日本電動化アクション 『ブルー・スイッチ』活動 216件*1 (P117)  モビリティサービスとエネルギーマネジメントを活用した福島浜通りでのまちづくり貢献 北海道釧路山振興局でソーラーカーポート発電による再生可能エネルギーを活用した「NISSAN e-シェアモビ」ステーションを開設*2 交通安全未来創造ラボ(P078) UNDP「ビジネスと人権」プロジェクトの参加(P073)
NGO・NPO	問い合わせ窓口、社会貢献プログラムの運営、寄付、 災害被災地支援、イベント、財団を通じた助成	社会課題の解決に向けた協働や支援	NPO・NGO7団体に会員として参加、意見交換実施 スマイルサポート基金(7団体支援)
地域社会・将来世代	各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、 社会貢献活動、協議会、交通安全啓発活動、 財団を通じた助成、ウェブサイト	地域社会への貢献 企業理念 日産のサステナビリティの取り組み	おもいやりライト運動(点灯呼びかけアクション)(P077) 従業員による出前授業の実施 リカジョ(理科教育助成)育成賞の授与(財団)

*1 2018年5月以降2023年3月末の累計数。「ブルー・スイッチ」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology/blue-switch.html> >>> P.117

*2 詳細はプレスリリースをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-3deacb6d976a71e480ed6674022754ea-230322-02-j>

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集
CEOメッセージ		CSOメッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス		日産のサステナビリティ

株主・投資家の皆さまとの対話の方針

日産ではチーフ ファイナンシャル オフィサー(CFO: Chief Financial Officer)を中心に、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などの会社情報の適時・適切な開示と継続的なコミュニケーションを通じて、株主・投資家の皆さまと建設的な対話を行い、信頼関係の構築に努めています。

対話を通じて得られた株主・投資家の皆さまの質問や意見は、担当役員を介して取締役会および経営層にフィードバックされ、経営の参考にしていきます。また、決算発表準備期間中における情報漏えいやインサイダー取引を防止するため、四半期ごとの決算期末日翌日から決算発表日までの間は決算情報に関する対話を一切行いません。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

日産は投資家向けのウェブサイト運営し、随時最新情報を開示するとともに、事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層が積極的に情報を提供しています。2022年度のコミュニケーション実績は次の通りです。

2022年度の株主、投資家の皆さまとのコミュニケーション実績

2022年 4月	技術セミナー(全固体電池、運転支援技術)
2022年 7月	軽EV説明会(三菱自動車と共同)
2022年 9月	サステナビリティセミナー
2022年 11月	事業戦略説明会
2023年 2月	アライアンスに関する質疑応答セッション
2023年 3月	技術セミナー(電動パワートレイン)

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

株主総会

株主総会をはじめとするさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても適切な説明をすることで、信頼に添えていきたいと考えています。^{*1}

第123回定時株主総会は、2022年6月28日、日産グローバル本社で開催し、254名の株主の皆さまにご出席いただきました。会場でご参加いただいた方々に加え、インターネット経由でも配信を行い、より多くの方々にご視聴いただきました。

社外からの評価

環境分野で世界的に権威のある国際的な非営利団体CDPより、「ウォーターセキュリティ」部門の最高評価である「Aリスト」企業に4年連続で認定されました。同団体による気候変動に対する企業の取り組みの調査でも「A-」を獲得し、「ウォーターセキュリティ」と「気候変動」の2部門において、「リーダーシップレベル」の認定を受けました。また、「ローレウス・スポーツ・フォー・グッド・インデックス」において、世界で最も社会的影響力のあるブランドのひとつに2年連続で選出されました。^{*2*3}



FTSE4Good Index Seriesに引き続き選定、FTSE Blossom Japan Indexにおいても8年連続で構成銘柄に選定され、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexへは、同indexが新たに設定された2022年より組み入れ企業として選定されています。^{*4*5}



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan Index



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

^{*1} IR情報に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

^{*2} CDP「ウォーターセキュリティ」部門「Aリスト」企業に認定。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-7649279cca9d786cbd5af9067235920d-221216-01-j>

^{*3} 「ローレウス・スポーツ・フォー・グッド・インデックス」に2年連続で選出。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-4d3e710cf4911c36108b0a44ef21b3f3-221107-01-j>

^{*4} FTSE4Good Index Seriesに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

^{*5} FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>